

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 古河市立古河第一小学校 】

1 実践テーマ	I・III・IV・V
2 実施対象者 (学年・人数)	古河市立古河第一小学校 パラリンピック集会 全学年 335名 オリンピック集会 全学年 335名 参観を希望した保護者
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 (道徳, 学級活動, 体育) ② 行事名 (「パラリンピックを楽しもう集会」 「フェンシング博士になろう!」) ③ その他 (各学級での『I'm POSSIBLE』を活用した道徳の授業, オリンピックパラリンピックコーナーの設置) <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの価値を知ることを通して、誰もが活躍できる社会を目指す態度を育てる。 ・障害のある人でも一緒にスポーツを楽しめるようルールを考えることを通して「公平」とはどういうことか考える。 ・オリンピックの講話、体験を通して努力することや感謝することの大切さを学び、日常の生活や学習に生かそうとする態度を育てる。
5 取組内容	<p>1 パラリンピックを楽しもう集会（全校人権集会）</p> <p>(1) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックについて様々な角度で知り、東京2020パラリンピックに興味をもつ。 <p>(2) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5人制サッカーやシッティングバレーの映像から障害がある人がスポーツをする姿を見て、どんな工夫がされているか考える。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールや用具の工夫を障害がある人達の立場になって考える。 </div> </div>

2 『I'mPOSSIBLE』を活用した道徳の授業

(1) ねらい

- ・障害のある人とない人が共に生活するにはどんなことが必要か考える。

(2) 内容

- ・車いすの友達と運動会の玉入れに参加するにはどうすればいいかを考える題材を通して、「公平」とはどういうことかを考える。
- ・たくさんの選択肢の中から「自分だったらどうするか」「車いすの友達が自分だったらどうして欲しいか」という視点で考え、議論する時間とした。

3 「フェンシング博士になろう！」

(1) ねらい

- ・オリンピックの講話を聞き、努力することや高い目標を持つこと、周りの人に感謝することの大切さに気づくことができる。
- ・オリンピック、フェンシングについて興味・関心を持ち、スポーツを楽しむ態度を育てる。

(2) 内容

- ・講師 千田 健太氏（フェンシング）
2012年ロンドンオリンピック男子フルーレ団体銀メダリスト
- ・第1部 講話
 - フェンシングの基礎知識
 - 銀メダルを取るまでの道のり
 - 友達や支えてくれる人の存在と感謝の気持ち
 - 高い目標をもって行動することの大切さ
 - 最後まであきらめない気持ちを持つことの大切さ



- ・第2部 体験教室 各学級1名ずつ 代表12名
プラスチックの剣によるミニゲーム、風船割
フェンシングの構え、攻め方、守り方を教わった。

4 「オリンピックパラリンピックコーナー」

オリンピックパラリンピックに関する書籍を中心に図書館前に整備した。また、インクルーシブ教育に関する本も準備し障害のある者への理解を深められるようにした。

《活用した書籍》

- ・ドラえもんふしぎのヒストリー2 2つの東京オリンピック
 - ・みえるとか みえないとか ・だれもしらない
 - ・パラリンピックとある医師の朝鮮 ・ブレードガール 等
- 《言葉の貯金箱》
- ・オリンピックパラリンピックに関連する書籍から、新しく知った言葉や気に入った言葉を貯金し、異文化について調べ、語彙力の向上に取り組んだ。

	<p>5 放送によるオリパラクイズ 昼の放送による「オリパラ」に関するクイズを流し、オリパラに関しての関心が持続的に持てるようにした。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>1 パラリンピック集会、『I'm POSSIBLE』を活用した道徳の授業 《児童の変容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害があるとスポーツは楽しめないと思っていたけど、「できない」からこそ「できる」のがパラリンピックだと思った。 ・今まで、パラリンピックの競技を全然知らなかった。来年のパラリンピックが楽しみになった。 <p>2 「フェンシング博士になろう！」 《アンケートの結果から》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「以前より目標をもつ大切さを感じた」 思う 91% ・「努力することの大切さを感じた」 思う 95% ・「オリンピックパラリンピックに興味を持つようになった」 89%
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○カリキュラムマネジメントの視点から、「オリンピックからの講演」「パラリンピック人権集会」で得たことを様々な教科領域で活用、発揮できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校人権集会を持ち、障害がある者となない者とが共に助け合うことについて考える機会を設け、人権集会（パラリンピックを楽しもう集会）で学んだことを、総合的な学習の時間「みんなにやさしい福祉」において生かせるようにした。 ・学校行事「出城祭り」において体験活動に「一小オリンピック開催：卓球、ポッチャ、バスケットボール」などのコーナーを設け、「誰でも楽しめるように」を意識しながら主体的に準備できるようにした。 ・学校での語彙力向上の取り組みを発展させ、オリンピックパラリンピック関連の書籍から語彙を広げられるようにした。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全学級で『I'm POSSIBLE』を用いた道徳の授業を行い、学校全体としてインクルーシブ教育を推進した。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師との連絡調整の仕方。 ・オリンピック講演会では、低学年から高学年までの全ての児童が理解できるよう工夫したが、難しさを感じた。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、『I'm POSSIBLE』を用いた道徳の授業を行い、学校全体としてインクルーシブ教育を推進していく。 ・運動会において、オリンピックパラリンピックを意識した種目を取り入れ、誰もが楽しめる視点を持ち主体的に取り組める態度を育てる。